

CT、MRIの撮影受け入れ

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

全身のあらゆる臓器の病変を検出してくれるコンピュータ断層撮影（CT）や磁気共鳴画像装置（MRI）。適切な診断のために欠かせないが、高額な大型装置を各診療所で整備するのは難しいのが実情だ。このため、県立中央病院は他の医療機関との共同利用を進めている。

かかりつけ医の紹介で患者を受け入れ、必要な画像を撮影。3人の放射線診断医が画像を分析し、画像データと診断リポートをかかりつけ医に送る。かかりつけ医はリポートをもとに最適な治療法を選択する仕組みだ。

放射線診断医のもとには、県立



放射線診断科
斉藤 彰俊 副科長

診療所と診断結果を共有

《 17 》

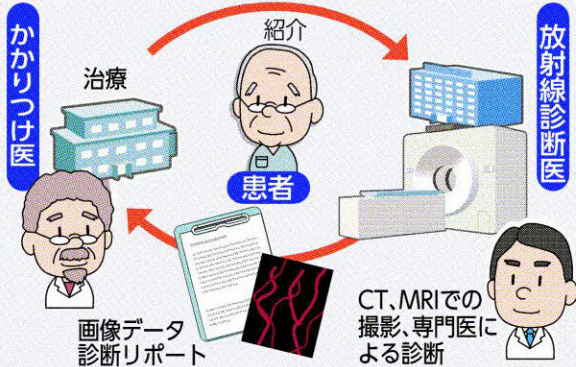
中央病院内の各診療科からもさまざまな画像が送られてくる。放射線診断医は直接、患者と接することとはほとんどないが、画像を通して主治医やかかりつけ医とのダブルチェックの役割を果たしている。

県立中央病院は、診断・治療の技術向上とともに患者数が増加。画像診断の件数も2008年1万3909件、09年1万5041件、10

年1万6597件、11年1万6830件と増え続け、15分おきだったCTの予約を10分おきにして対応している。10年には放射線科を「放射線診断科」と「放射線治療科」に分け、業務の明確化を図った。

放射線診断科副科長の斉藤彰俊医師によると、撮影技術も向上しているという。CTでは、診断に必要な放射線量を体の部位ごとに計測し、撮影中に自動的に変化させることで被ばくを最低限まで減らせるようになった。カテーテル検査が必須だった冠動脈も診断可能になっている。MRIでは、脳の神経線維の描出もでき、手術の精度も向上しているという。

画像診断機器の共同利用



救急患者の画像診断に対応するため、iPad（アイパッド）などを利用した遠隔画像診断の実施も検討している。斉藤医師は「最新技術を生かした画像診断を診療所でも共有できる。地域の医療資源としてもっと活用してほしい」と話している。

（第2、4金曜日に掲載します。次回は27日です）